

令和7年度 校内研究のまとめ

行方市立玉造中学校

研究主題 協働的に課題を解決し、

自分の考えを表現する力を育成するための学習指導の在り方
～探究的な学習活動を充実させる指導方法の工夫を通して～

1 主題設定の理由

「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められている。その中でも、「協働的な学び」は、多様な他者と協働することで、生徒一人一人のよい点や異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出していくことが求められている。このように教師と生徒、生徒同士の関わり合いを通じて学び、協働的に課題を解決することの重要性が、AI技術が高度に発達する「Society5.0時代」にこそ一層高まると考える。

また、本校の学力面での課題は、理由や根拠を明確にして、論理的に説明する力の向上である。令和6年度の茨城県学力診断のためのテストにおいても記述式の問題の無答率が他の問題と比べて高い。また、令和7年度の全国学力・学習状況調査の国語では、自分の考えとその理由を書く問題の正答率が全国や県の平均正答率を下回った。これは、課題を解決するための手順や自分の考えを、根拠をもとに筋道をたてて説明したり、文章で表現したりする学習が不足していたためと考える。

協働的な学びでは、発表、共有、比較、合意形成など自分の考えをわかりやすく相手に説明する場面が多くなり、理由や根拠を明確にして、論理的に説明する力は不可欠である。そして、生徒が自分の考えを表現したくなるような学習にするためには、生徒自らが疑問をもち、課題を発見し、協働的に学び、解決したことをまとめ・表現する探究的な学習活動の充実が重要であると考え。

以上のことにより、探究的な学習活動を充実させる指導方法の工夫を通して、協働的に課題を解決し、自分の考えを表現できる生徒を育てるための学習指導の在り方を究明することが必要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

探究的な学習活動を充実させる指導方法の工夫を通して、協働的に課題を解決し、自分の考えを表現できる生徒を育成するための学習指導の在り方を究明する。

3 研究の仮説

- (1) 探究的な学習活動を充実させれば、情報の収集や整理・分析、まとめ・表現の各場面で意見交換したり、協働して学習を進めたりすることで、生徒自身で協働的に課題を解決する力が育つであろう。
- (2) 探究的な学習活動を充実させれば、まとめたり表現したりする場面において、根拠や理由を明確にし、自分の考えを説明したり文章に書いたりする必要性が高まり、自分の考えを表現する力が育つであろう。

4 基本的な考え方

(1) 探究的な学習活動

探究的な学習活動は、課題の発見、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返りを行い、自分から課題を見つけて解決することを繰り返す学習活動である。本研究では、各教科において、探究的な学習活動となるように、学習課題の工夫を行うことで、探究的な学習を実現していく。

(2) 協働的に課題を解決する力

協働的に課題を解決する力とは、生徒同士が協力して生徒自身の力で課題を解決する力と捉える。特に、生徒同士の対話を通して課題を解決できるよう、グループワークや全体の共有の場面で指導が重要であると考えられる。

(3) 自分の考えを表現する力

自分の考えを表現する力とは、自分の考えを、根拠や理由を明確にして、論理的に表現することができる力だと考える。根拠や理由の捉え方を整理し、書いたものを比較したり評価したりして表現を改善する指導を行う。また、根拠・理由・自分の考えを表現するときの順序についても考える機会を設けることで、より論理的な表現になるよう指導を行う。さらに、用語や字数、内容について求められる条件に沿って記述する活動を取り入れ、指導を行う。

5 実践内容

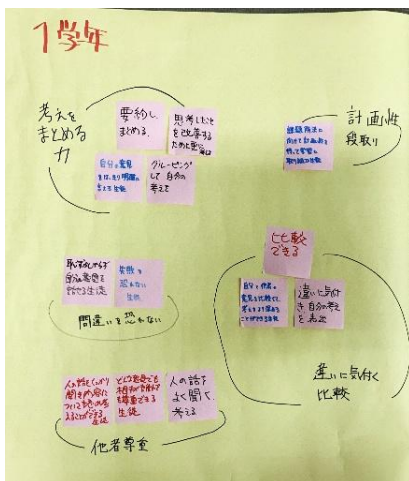
(1) ボトムアップ型の校内研修

校内研修において、生徒の実態から「玉造中の生徒の課題」や「具体的に目指す生徒の姿」について話し合い、改善策について考えた。教員が、自ら課題を見つけ、改善方法を検討する時間を設けることで、課題意識をもって授業改善に取り組めるようにした。また、探究的な学習活動の実現に向けて、考えを共有して、玉造中学校授業スタイルを新しく設定した。

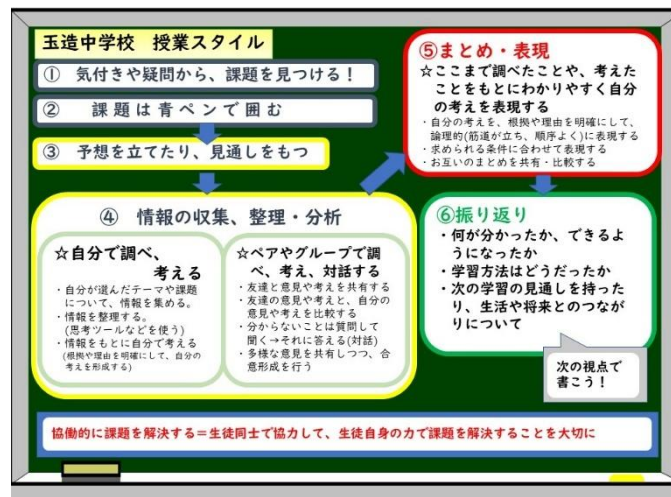
【校内研修の様子】



【話し合われた目指す生徒の姿】



【玉造中授業スタイル】



(2) 研究授業の推進

鹿行教育事務所の「授業カパワーアップ訪問」の理論研修において、探究的な学習活動や協働的に課題を解決する力、自分の考えを表現する力についての研修を行った。各教科においては、探究的な学習課題の構想や協働的に課題を解決する授業構想について職員から提案を行い、指導主事から指導・助言をいただいた。さらにその理論研修を基研究授業を実施し指導主事に参観していただくとともに、助言を踏まえて改善を図った。

【授業カパワーアップ訪問の様子】



【各教科で提案された探究的な学習課題の案 英語科】

探究的な学習課題の例
<ul style="list-style-type: none">・聞き手の記憶に残るような自己紹介をしよう・好きな有名人やあこがれの人について説明をしよう・1年間を振り返り、思い出に残った出来事について発表しよう・茨城をよりよい県にするために、SDGsの視点でできることを提案しよう・茨城の魅力アッププロジェクト～こんな茨城にしたい、住みたい、なってほしい～
<ul style="list-style-type: none">・オススメのご当地グルメを紹介しよう・海外で住む人たちに日本の学校生活を紹介しよう・行ってみたい世界遺産を紹介しよう
<ul style="list-style-type: none">・日本の郷土や文化などについて、詳しい情報を加えて説明しよう。・これまでの経験を振り返って、活動報告をしよう。

(3) 対話を通して課題を解決する学習活動の充実

協働的に課題を解決する力を高めるために、対話を通して課題を解決する学習の提案授業を5月に行った。提案授業では、生徒司会による授業を行い、生徒が主体となって、自らの力で課題を解決する学習の在り方について検討した。この提案授業をもとに、各教科において学習目標に合った話し合い活動の場面を、授業や単元計画に積極的に取り入れた。話し合う際には、ペア、グループ(固定班、自由班)、クラス全体などの人数設定や、生徒司会、ディベートなど話し合いの方法を適切に設定するよう工夫した。また、協議なのか討論なのかといった目的を明確にした上で話し合うことで、合意形成する力や根拠や理由を明確にして考えを表現する力の育成に取り組んだ。

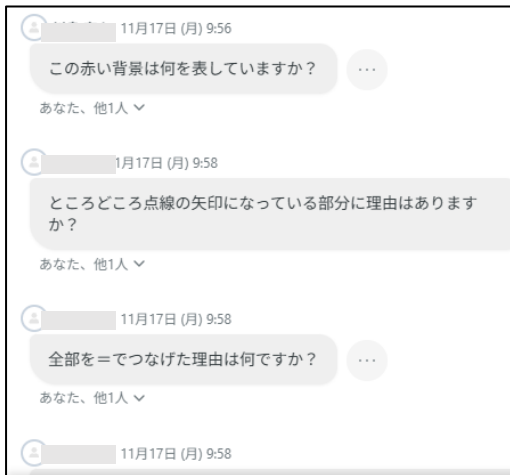
【提案授業の様子(生徒司会)】



(4) 協働的に課題を解決するための ICT の活用

友達の意見を共有したり、他者とともに資料を作成・編集等を行ったりするなど、協働的に課題を解決するための手段として ICT を活用した。リアルタイムで友達の考えを参照できるようにすることで、自分の考えと比較しながら考えを深めたり、広げたりすることを促した。また、クラスクラウドのコメント機能を活用して、友達がまとめた説明文や表現に対して質問することで、根拠や理由を明確にして自分の考えを説明する力の育成を図った。さらに、クラスクラウドの AI の機能を活用して、クラス全体で調べたり考えたりした情報を整理・分析し、共通点を見出したり、新しい視点に気付いたりしながら、他者の考えと自分の考えを組み合わせることでよりよい考えを生み出し、課題を解決できるようにした。

【コメント機能での質問】



【AIによる情報の分析・整理の例】



(5) 評価基準の提示

自分の考えを表現する力を高めるために、自分の考えをグループで比較・検討する場面で、評価基準を提示した。評価基準を生徒に提示することで、生徒が自分の書いた文が書く視点や条件に応じて書いているのかについて自己評価・相互評価を行い、自分の到達度を理解し、表現を改善できるようにした。評価基準の提示の仕方は、例えば、英語科では観点ごとに細かく評価のためにルーブリックを作成したり、数学科のようにシンプルな評価基準を提示したりするなど、教科の特性に合うものを用意した。

【ルーブリックの例(英語科)】

Name	A	B	C
知識技能	既習事項を用いてわかりやすく正確な表現を使用している	ミスや間違いはあるもののコミュニケーションに変障がない	ミスや間違いが多くコミュニケーションに支障がある
思考判断表現	聞き手にとって魅力的な内容構成でプレゼンしている。	相手と場面を意識した内容のプレゼンを行っている。	相手と場面を意識できていない
主体的に取り組む態度	非言語コミュニケーションを積極的に用いている	聞き手を意識し、理解を確認しながらプレゼンしている	資料を示しながらプレゼンしている
		3つ全部できている A 2つはできている B 1つはできている C	advice (Japanese)

【評価基準の例(数学科)】

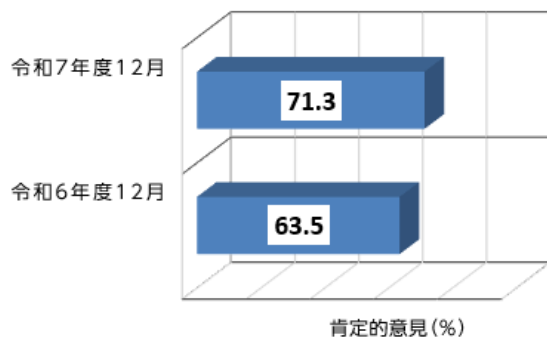
観点	A	B	C
表現力	根拠をもとにして、用語・式などを用いて、わかりやすく説明できる	根拠をもとにして、考えを説明できる	自分の出した答えに対する説明ができない

6 研究のまとめ

(1) 意識調査から捉える成果

学習に関する意識調査①

「理由や根拠を明確にして、自分の考えを説明したり、文章に書くことができる。」

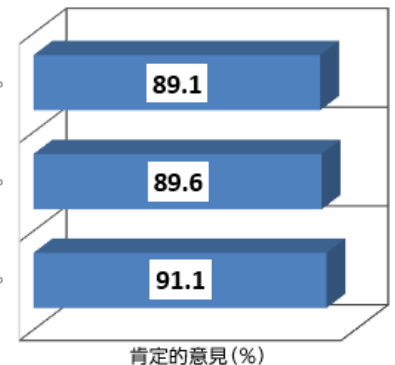


学習に関する意識調査②

授業中に友達と協力して課題を解決することができる。

授業中に友達とよく話し合っている。

分からないことを自分で質問して聞くことができる。



まず、上のグラフ「学習に関する意識調査①」は、本校の1～3年生において行った学習に関する意識調査の結果である。探求的な学習を充実させ、まとめ・表現の場面での指導を工夫したことで、「理由や根拠を明確にして、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることができる。」という問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、令和6年度は63.5%だったが、令和7年度は71.3%になり、7.8%増加した。このことより、理由や根拠を明確にして、自分の考えを表現する力を向上させることができた。

次に上のグラフ「学習に関する意識調査②」は、令和7年度12月に、本校の1～3年生において行った学習に関する意識調査の結果である。探究的な学習活動と、生徒同士の対話を通して課題を解決する学習の充実を図ったことで、3つの問いにおいて、肯定的に答えた生徒は、どれも90%前後と高い値だった。このことより、協働的に課題を解決する力を向上させることができた。

(2) 客観的なテストの結果から捉える成果

探究的な学習課題を設定し、協働的な学びの中で、自分の考えを論理的に説明したり表現したりする指導を行ったことで、業者による定期テストの記述問題の11月正答率(56.1%)－6月の正答率(55.9%)は+0.2ポイントであり、自分の考えを表現する力が2学期の方が1学期より向上させることができた。

(3) 課題と今後の取り組み

クラス全体での考えの共有や課題解決の場面での学習指導の方法の工夫・改善に課題がある。今後は、ICTを効果的に使うことで、思考の可視化、他者参照、全体での考えの共有や比較、関連付けなどを行い、協働的に課題を解決する力をより育成できるようにする。

また、ベテラン、ミドルリーダー、若手などそれぞれのキャリアステージを生かして、職員全体で研修を運営できるようにする。特に、ミドルリーダーとなる職員が、研究テーマの決定や研修計画の作成に参画し、研修全体を動かす原動力となるように役割を与えて研修体制を構築していく。